

令和5年度福岡市地下水・土壌汚染検討委員会 議事要旨

令和6年2月9日（金）10:00～11:00
福岡市役所13階 北側会議室
（Web併用開催）

1 出席者（敬称略）

福岡市地下水・土壌汚染検討委員会委員 4名

委員長
副委員長

氏名	役職等
松藤 康司	福岡大学 名誉教授
田口 幸洋	福岡大学 研究特任教授（福岡大学 名誉教授）
辻 真弓	産業医科大学 医学部衛生学 教授
広城 吉成	九州大学大学院 工学研究院 准教授

2 議事概要

（1）委員長・副委員長の選任

- 委員の互選により松藤委員が委員長に就任
- 松藤委員長の指名により田口委員が副委員長に就任

（2）令和5年度に判明した地下水汚染について

今回の博多区吉塚における地下水中の「ふっ素」の環境基準超過は、人為的汚染ではなく、地質由来の自然的要因であるとの結論を得た。

委員からの意見の概要は次のとおり。

<汚染井戸の地下水の水質について>

- 「汚染井戸」のヘキサダイアグラムは、花崗岩の典型的な地下水の形状に近い「周辺井戸⑦」と、浅い地下水の特徴を示す「周辺井戸⑥」を混ぜたような形状で、両者の中間的な水質である。

<ヘキサダイアグラム>

- 自然由来の汚染という結論はよいが、「周辺井戸⑦」等で陽イオンと陰イオンの当量バランスが取れていないのではないかと。
- （事務局）イオンバランスのずれの要因を調査したい。

<その他>

- 今回の汚染井戸は当てはまらないが、浅い地下水でふっ素の汚染が確認された場合は、工場など人為由来の汚染である可能性があるため注意が必要。
- 海水の影響を考える上で、過去の海岸線の位置を把握しておくとい。
- 市内では土地開発行為が増えており、地下水の問題が注目される可能性があるため、行政側で過去の自然由来の地下水汚染（ふっ素、砒素、水銀）のデータを整理しておくとい。